



豚熱ワクチンの初回接種が完了しました

令和5年12月8日に、県内全ての養豚場で豚熱ワクチンの初回接種が完了しました。

豚熱ワクチン接種は、令和5年8月末の佐賀県における豚熱発生に伴い、九州7県がワクチン推奨地域に追加されたことをうけて、9月27日から実施していたものです。

初回接種後は、豚が免疫を獲得できているか確認するために、各農場で採血を行い、抗体検査を実施していく予定です。

豚熱ワクチンを接種しても、体調・体質等によっては十分な免疫を獲得できない個体もいます。また、今後生まれてくる子豚は、接種時期次第では、母豚から移行する免疫によってワクチンの効果が弱まることあることから、今後は抗体検査成績を基に、適切な継続接種が実施される予定です。

ワクチン接種のみでは豚熱の発生を完全に防ぐことは難しいため、飼養者の皆様におかれましては、引き続き飼養衛生管理基準の遵守による防疫対策の徹底をお願いします。



豚熱(CSF)とは

豚熱ウイルスにより起こる豚、イノシシの熱性伝染病で、強い伝染力を持ちます。CSFは**特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病**です！発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に続く下痢、流死産等の異常産等、**異状を発見したら直ちに通報しましょう！**



※CSFについて
(農林水産省HP)



豚熱(CSF)は、豚、いのししの病気であり、**人に感染することはありません**。豚肉の摂取により、豚熱が人に感染することは世界的に報告されていません。

また、法律に基づき、豚肉は検査に合格したものが流通することになっています。検査で豚熱であると確認された肉や内臓などについては、市場に流通することはありません。

2023-24シーズンの高病原性鳥インフルエンザ発生状況

例数 発生都道府県

家さん 6県6事例 佐賀県、茨城県、埼玉県、鹿児島県、群馬県、岐阜県

野鳥等 22都道府県83事例 鹿児島県、佐賀県、宮崎県、熊本県、長崎県、福岡県
※九州のみ記載

【熊本県の状況 ～野鳥～】

※(1月5日時点)

八代市で12月1日に回収されたセグロカモメから、高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が検出され、同月6日付けで回収地点の半径10kmが野鳥監視重点区域として指定、12/29付けで解除されました。

ハエによる鳥インフルエンザウイルス媒介の可能性について

九州大学による環境中の鳥インフルエンザウイルスの調査として、オオクロバエの検査が実施され、12月14日に鹿児島県出水市で捕獲された252匹のうち1匹から、高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)が検出されたと発表がありました。

同様の調査は昨シーズンも実施されており、感染力を維持した高病原性鳥インフルエンザウイルスがハエの消化管から検出されていました。九州大学は、鳥インフルエンザウイルスの媒介に、ハエが関与している可能性があるとして指摘しています。

ネズミや衛生害虫対策は、これまでも対策をお願いしてきたところですが、鳥インフルエンザ発生リスク低減のためにも、ハエも含めて引き続き衛生害虫の対策をお願いします。

オオクロバエ

- 暗青藍色の大型のハエ（体長10～15mm）
- 飛翔力が高い（1.8km/日）



近隣諸国における悪性伝染病発生情報

| 病名 | 型 | 発生地（国） | 畜種 | 発生日月 |
|----------------------------|-----------|--------|--------------------|------------------------|
| 高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI) | H5N1 | 台湾 | 家さん（4） | 11月～12月 |
| | | 韓国 | 野鳥（3） 肉用あひる（3） | 12月1日～4日 12月13日～22日 |
| | H5N6 | 韓国 | 野鳥（5） 肉用あひる（5） | 12月4日～21日 12月5日～18日 |
| | | | 肉用種鶏（2） 採卵鶏（12） | 12月6日 12月8日～19日 |
| | | | 種あひる | 12月11日 |
| | H5N1,N6混合 | 韓国 | 肉用あひる | 12月3日 |
| | H5 | 韓国 | 野鳥 | 12月22日 |
| 肉用あひる | | | 12月25日 | |
| アフリカ豚熱 | | 韓国 | 野生いのしし（84件） | 12月 |
| 口蹄疫 | O型 | 中国 | 豚 | 12月7日 |

令和6年(2024年)1月4日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

